慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	悩んだり迷ったりしながら、好きな研究を続けてきた : 堀田耕司専任講師に聞く
Sub Title	
Author	池田, 亜希子(Ikeda, Akiko)
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2013
Jtitle	新版 窮理図解 No.14 (2013. 10) ,p.4- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	インタビュー
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000014-0004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

悩んだり迷ったりしながら、好きな研究を続けてきた

「ホヤへの興味がこれほど持続するとは思っていませんでした」と話しながら、ますますホヤ研究に力が入る堀田さん。子どもの頃から生物が大好きだったにもかかわらず、すぐには研究者になる自信を持つことはできなかったと言う。そして、これまでに「それは自分にできるのか」と何度も自問することがあった。堀田さんは何を感じながら研究者として歩んできたのだろうか。

――どんな子ども時代を過ごしたのでしょうか？

小学校１年生まで愛知県東海市に住んでいました。その頃は、虫を取ったり、絵を描いたり、生物を観察したりするのが大好きでした。特に、小川からすくってきた水を顕微鏡で観察して、ミジンコなどのプランクトンを見つけては、その動く様子にワクワクしたものです。うちには立派な木箱に入った顕微鏡があったのですが、今考えると、普通のサラリーマンの父がどうして持っていたのか不思議です。

かすかな記憶ですが、粘土で「鬼」の体の内部構造をつくって、祖父に熱心に説明したこともありました。その時「坊は大きくなったら学者になるよ」と言われたのを覚えています。

滋賀県大津市で過ごした中学・高校時代には、陸上部に所属して、琵琶湖岸沿いを毎日走っていました。その後、北海道大学に進学。迷うことなく基礎研究のできる理学部を選びました。基本的に生物が好きなので、獣医学や薬学、水産学なども私に合っていたかもしれないと思っています。

――ホヤには、どのようにして出会ったのでしょうか？

北海道大学では、卒業研究としてカエルの受精に関わる研究を行いました。そのまま大学院に進学するつもりでしたが、指導教官の片桐千明教授が定年を迎えられたため、別の進学先を探さなくてはならなくなりました。そんな時、京都大学の佐藤矩行（のりゆき）教授の特別講義を聞く機会があり、佐藤研究室へ進むことを決めました。佐藤教授は、日本のホヤ研究の第一人者で、ホヤをモデル生物にまで昇華させた人です。

佐藤研究室は、とても活気のあるところで、いろいろな刺激を受けました。まず、研究室に顔を出した翌日から、青森県にある東北大学の浅虫臨海実験所に行かされ、それから１カ月間ひたすらホヤの発生を顕微鏡で観察しながら、脊索細胞を集める仕事をしました。今考えると、この時に生物の発生について１から学んだのです。以来15年間、ホヤの研究をしています。

――ごく自然に生物の研究者になる道を選んだのでしょうか？

実は、そうではありません。昆虫の研究者がいる一方で、昆虫採集を趣味にしている人がいるように、両者の間には何か敷居があると思っていました。佐藤教授のもとにいた大学院時代、なかなか研究者として生きていくことに自信が持てませんでした。同期生が５人いたのですが、１人は京都大学出身の四天王などと呼ばれていた秀才で、早くから自力で論文を書いていました。東京大学から来た同期はフロンティア精神にあふれていて、手つかずのまま残されていた「オタマボヤ」の研究をしたいと、飼育システムづくりをしていました。それに対して、佐藤研究室に入ったばかりの頃の私は、「生き物って面白いな」くらいにしか思っていなかったのです。最初は、同期との温度差に戸惑いましたが、私もいつしか研究に没頭するようになっていきました。

きっかけは、学会発表を経験したり、論文を出したりして、達成感と世の中に認められた喜びを経験したことでした。私は、研究は社会に還元されなければならないと思っていたので、これで、研究を続けていく自信がついたのです。

この自信は、佐藤研究室が育んでくれたものだと思っています。佐藤研究室は小さな発見でも大切にするところで、成果をできる限り論文として世の中に出していました。学生が大変な労力を割いて出した結果に対して、それに見合った何かを用意してくれたのです。

今、学生を指導する立場になって、このことを心がけています。もちろん頑張ったからといって、いい結果がでるとは限らないのが研究です。それでも、学生たちには発見を経験して欲しいので、筋のいい研究方針を立てられるように助言しようと思っています。そして、得られた結果はなるべく論文などの形

学生たちには発見を経験して欲しい。
それにより達成感や
世の中に認められた喜びが得られるから！

堀田耕司

Kohji Hotta

北海道大学理学部生物科学科卒業。京都大学大学院理学研究科時代に、ホヤに出会う。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。国立遺伝学研究所 生命情報・DDBJ 研究センターの学振 PD ポスドク、基礎生物学研究所　形態形成部門、イタリアのナポリ臨海実験所を経て、2005 年に慶應義塾大学理工学部生命情報学科助手。2007 年同助教。2009 年より同専任講師。専門は、進化・発生生物学、分子生物学、バイオイメージング、バイオインフォマティクス。

学生の論文がアクセプトされる度にOB・OG たちも呼んで祝っている。

にして欲しいと考えています。

――慶應義塾大学に来るまでにいろいろな経験をされたようですね。

15 年間ホヤの研究を続けていますが、場所はいろいろと移ってきました。ホヤのゲノム配列が決定される時期には静岡県三島市にある国立遺伝学研究所の五條堀孝教授のもとでバイオインフォマティクスや進化を学びました。愛知県岡崎市の基礎生物学研究所やイタリアのナポリにある世界最古の臨海実験所でも研究していました。ポスドク時代に多くの方々にお世話になり、私はのびのびと研究に没頭させていただくことができました。場所を変えることで、新しい出会いがあったり、実験手法を学んだり、たくさんのことを吸収してきました。

しかし、慶應義塾大学で職を得られることになったときに思い悩んだのは、自由を失うということよりも、後進を育成する責任の重さについてでした。私なりに覚悟をして、ここに来たつもりでいます。

2005 年に移ってきたので、慶應義塾大学にはかれこれ 8 年間在籍しています。これだけ長くいられるのは居心地がいいからです。岡教授をはじめ周りの人たちが、私が研究に没頭できる環境をつくってくださっていると感じています。岡研究室では、岡動物園と呼ばれるほどいろいろな動物の研究が行われていて、ホヤ研究を専門にする私にはとても面白い環境です。また、慶應義塾大学では申請して認められれば、学内研究資金も十分に得られますし、教員を育てるシステムも充実しています。優秀な教員がいれば、学生たちもいい教育が受けられるわけです。

――教員仲間とスイーツ部をつくっているそうですね。

私にとっては研究が趣味みたいなもので、特にこれといった趣味はないのですが……。実はかなりの甘党なんです。教員仲間と甘党部をつくって、たまに甘いものを食べに行っています。ただ、最近太り始めたので、自転車を買って、この 4 月からはサイクリングを始めました。自分の力でどこへでも行ける感覚や道すがら偶然発見するさまざまな街の様子が楽しくて、結構気に入っています。ホヤの幼生が尾を振りながらどこにでも泳いで行く感覚に近いのかな。ホヤは親からできるだけ離れて、固着する場所を求めて移動していきますが、私の場合サイクリングで目指すのは、美味しいスイーツ店です。自転車で気軽に立ち寄れるスイーツ店があったら、ぜひ教えて下さい。

◎ちょっと一言◎

学生さんから：

● 堀田先生は、対等に言い合える存在です。議論を交わすことで、自分も成長できたと感じています。何より先生の研究者らしいこだわりと、興味があることに向かっていくひたむきな姿勢を尊敬しています。ただ、これもあれもやってみようと次々にアイデアがわくので、時々仕事がいっぱいになってしまうことはあります。

（取材・構成　池田亜希子）

さらに詳しい内容は
http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai